

1:25,000活断層図

雫石盆地西縁－真昼山地東縁断層帯とその周辺

「秋田駒ヶ岳」解説書

杉戸 信彦
(法政大学)

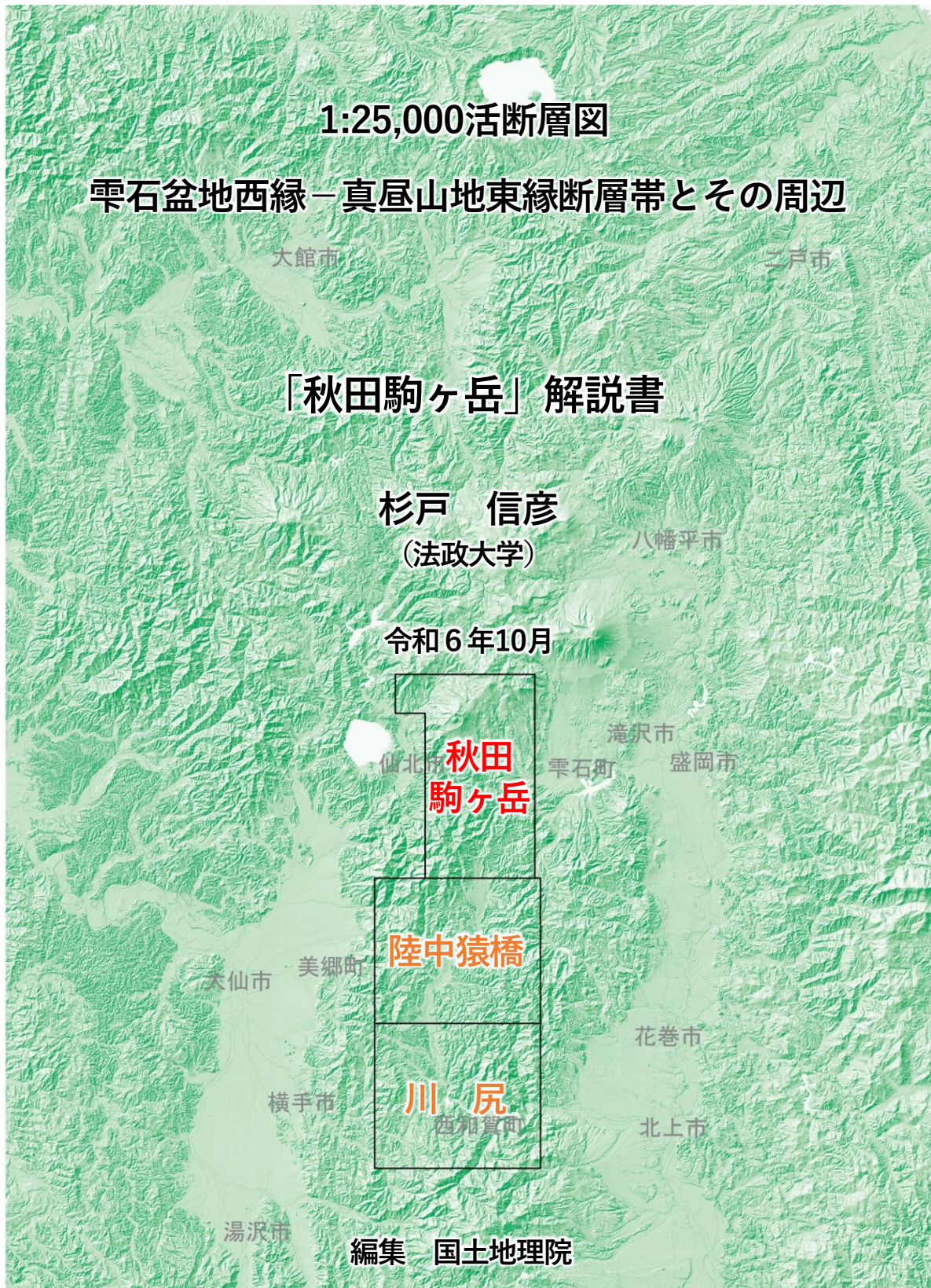
令和6年10月

秋田
駒ヶ岳

陸中猿橋

川尻

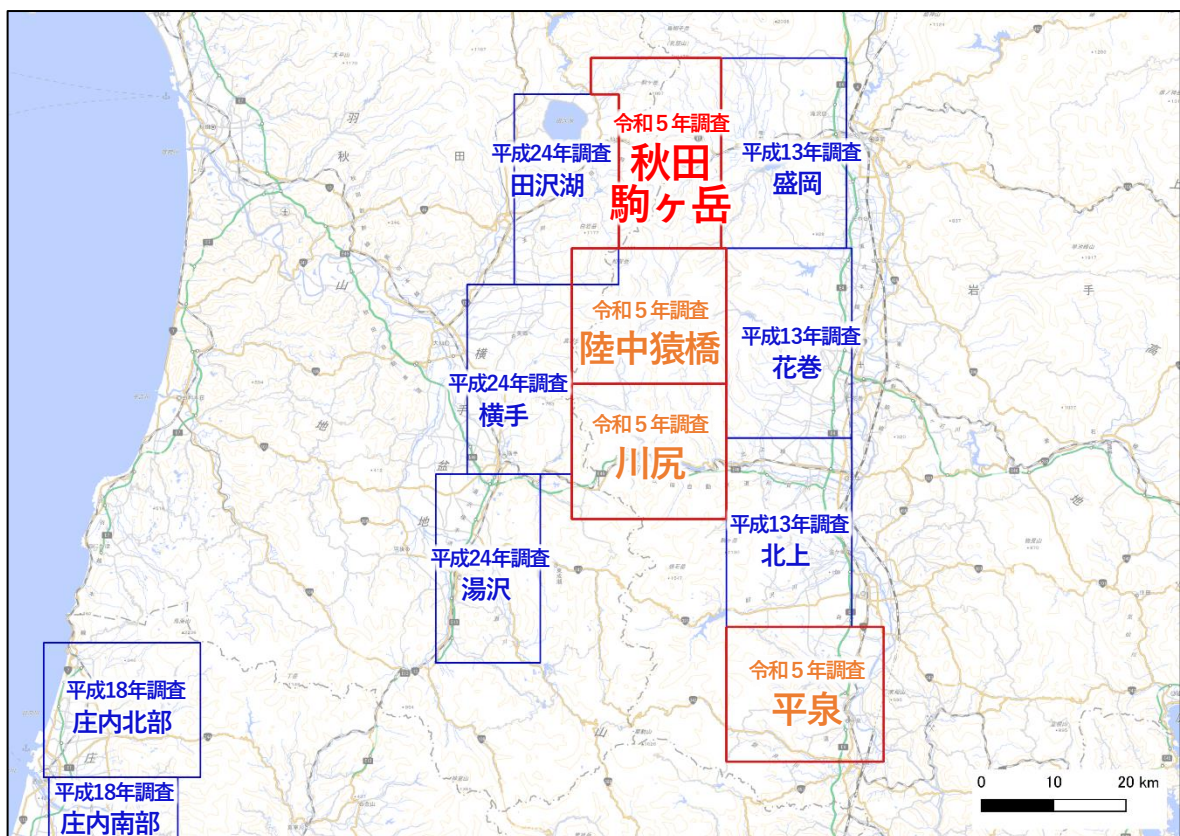
編集 国土地理院



目 次

1:25,000活断層図 雫石盆地西縁－真昼山地東縁断層帯とその周辺「秋田駒ヶ岳」解説書

1. 貝沢断層 ^{かいざわ} ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
2. 生保内断層 ^{おぼない} ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
3. 雫石盆地西縁断層帯と関連する傾動・・・・・・・・・・	3
4. 大黒沢付近の断層 ^{だいこくさわ} ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
5. 雫石盆地西縁断層帯から延びる断層・・・・・・・・・・	4
6. 赤沢川上流部付近の断層 ^{あかさわがわ} ・・・・・・・・・・	5
7. 大小屋山北方の断層 ^{おおこやま} ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
引用文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
使用空中写真，使用航空レーザ測量データ及び検討委員会等	7
付図（断層索引図）・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9



□ 令和5年調査図郭 □ 令和4年以前の調査図郭

1:25,000活断層図「秋田駒ヶ岳」作成位置図

1:25,000 活断層図 雫石盆地西縁－真昼山地東縁断層帯とその周辺「秋田駒ヶ岳」解説書

雫石盆地西縁－真昼山地東縁断層帯は、雫石盆地西縁断層帯と真昼山地東縁断層帯によって構成される（地震調査研究推進本部地震調査委員会，2005）。

雫石盆地西縁断層帯は、岩手県岩手郡雫石町玄武洞付近から同町鶯宿^{おうしゅく}付近にかけて、約 17 km にわたって北北東－南南西方向に延びる、西側隆起の逆断層である（地震調査研究推進本部地震調査委員会，2005）。真昼山地東縁断層帯は、雫石町南西部から秋田県平鹿郡山内村（現横手市山内）にかけて、約 38 km にわたって北北東－南南西方向に延びる、西側隆起の逆断層である（地震調査研究推進本部地震調査委員会，2005）。

本図には、真昼山地東縁断層帯を構成する貝沢断層^{かいざわ}のほか、生保内断層^{おぼない}、雫石盆地西縁断層帯と関連する傾動、及び推定活断層が記載されている。以下に、各断層の概要と判読根拠を記載する（下記の断層ごとの番号及び記号は、巻末の付図（断層索引図）に記載した番号及び記号に対応）。

1. 貝沢断層^{かいざわ}

- ・走向 : ほぼ南北
- ・長さ : 約 2 km
- ・断層種別 : 活断層（縦ずれ）

（※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である）

（1）概要

貝沢断層は、志戸前川上流部^{しとまえがわ}、雫石町と岩手県和賀郡西和賀町の境界付近から 1:25,000 活断層図「陸中猿橋」（岡田ほか，2024）図面内、西和賀町貝沢付近までほぼ南北に延びる活断層である。

本図には、志戸前川上流部、雫石町と西和賀町の境界付近から図面南端までほぼ南北に延びる長さ約 2 km の区間が記載されており、縦ずれの変位を伴っている。

本断層は、活断層研究会編（1991）及び地震調査研究推進本部地震調査委員会（2005）では「北川舟西の断層」と記載されているが、本図の基図として使用した電子地形図 25000 には「北川舟」という地名が認められないため、断層周辺の地名から「貝沢断層」とした。

（2）判断根拠

東落ちの高度不連続が認められ、その基部付近に、中位段丘面や下位段丘面が東落ちの変位を受けて形成された低断層崖が認定される。活断層研究会編（1991）による「北川舟西の断層」の北部に概ね相当する。中田・今泉編（2002）及び今泉ほか編（2018）はこの付近に東落ちの活断層を認定しているが、今回、分布と連続性についてあらためて検討し、図示した。池田ほか編（2002）には本地域の活断層図は掲載されていない。

2. 生保内断層^{おぼない}

- ・走向 : ほぼ南北
- ・長さ : 約 0.1 km
- ・断層種別 : 活断層 (縦ずれ)

(※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である)

(1) 概要

生保内断層は、仙北市、^{ならやま} 榎山の北西付近から 1:25,000 都市圏活断層図「田沢湖」(堤ほか, 2013) 図面内、仙北市^{どうでん} 堂田付近までほぼ南北に延びる活断層である。

本図には、榎山北西付近のほぼ南北に延びる長さ約 0.1 km の区間が記載されている。

(2) 判断根拠

岩屑なだれ堆積面に西落ちの変位が認められる。1:25,000 都市圏活断層図「田沢湖」(堤ほか, 2013) には、生保内断層の北端付近に、岩屑なだれ堆積面を変位させるトレースが 3 条記載されている。今回認定されたトレースは、それらのうち最も東側のトレースの北延長に相当する。このトレース (最も東側のトレース) は、今泉ほか編 (2018) にも記載されているが、池田ほか編 (2002) 及び中田・今泉編 (2002) には記載されていない。生保内断層の分布区間は、活断層研究会編 (1991) による駒ヶ岳西麓断層群と概ね一致する。

3. 雫石盆地西縁断層帯と関連する傾動

- ・走向 : 北北東－南南西
- ・断層種別 : 活断層 (傾動)

(1) 概要

雫石町^{うわのざわ} 上野沢付近に認められる、北北東－南南西方向に延びる西北西落ちの傾動であり、雫石盆地西縁断層帯と関連すると推定される。

(2) 判断根拠

岩屑なだれ堆積面に西北西への傾動が認められる。この傾動は、1:25,000 都市圏活断層図「盛岡」(八木ほか, 2002) において^{そでやま} 袖山付近に図示されている傾動と一連のものである。雫石町橋場付近～上野沢付近には、須藤・石井 (1987) に基づくと向斜構造が推定され、また大沢・須田 (1980) は盆状構造を図示している。この傾動は、こうした地質構造と調和的であり、西傾斜の逆断層である雫石盆地西縁断層帯の活動に伴って生じた隆起側の変形と推定される。

本図には、推定活断層として、大黒沢付近の断層、雫石盆地西縁断層帯から延びる断層、赤沢川上流部付近の断層、大小屋山北方の断層が記載されている。

4. ^{だいこくさわ}大黒沢付近の断層

- ・走向 : 北東－南西
- ・長さ : 約 5 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(1) 概要

仙北市の大黒沢付近に位置し、北東－南西方向に延びる、長さ約 5 km の推定活断層である。

(2) 判断根拠

尾根・谷の系統的な右屈曲や鞍部、南東落ちの高度不連続が認められるものの、活断層であることを示す確実な証拠を欠くため、推定活断層として認定した。

5. 雫石盆地西縁断層帯から延びる断層

- ・走向 : 北北東－南南西、北北西－南南東
- ・長さ : 約 1 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である)

(1) 概要

雫石町の赤沢川中流部に位置し、北北東－南南西方向及び北北西－南南東方向に延びる、長さ約 1 km の推定活断層である。

(2) 判断根拠

東落ちの高度不連続が認められるものの、活断層であることを示す確実な証拠を欠くため、推定活断層として認定した。1:25,000 都市圏活断層図「盛岡」(八木ほか, 2002) 図面内の雫石盆地西縁断層帯を構成する推定活断層に連続する。活断層研究会編(1991)による西根断層群の南端付近、及び桑原断層の北西端付近に概ね相当する。前者に関し、池田ほか編(2002)、中田・今泉編(2002)、及び今泉ほか編(2018)は、雫石川付近以南には活断層・推定活断層を認定していない。後者に関し、地質断層としての桑原断層は、東～北落ちの正断層として記載されている(村井, 1961)。

6. ^{あかさわがわ}赤沢川上流部付近の断層

- ・走向 : 北東－南西
- ・長さ : 約 3 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(1) 概要

雫石町の赤沢川上流部に位置し、北東－南西方向に 2 条並走して延びる、長さ約 3 km の推定活断層である。

(2) 判断根拠

尾根・谷の系統的な右屈曲や鞍部が認められるものの、活断層であることを示す確実な証拠を欠くため、推定活断層として認定した。

7. ^{おおこややま}大小屋山北方の断層

- ・走向 : 北東－南西
- ・長さ : 約 1 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(1) 概要

雫石町と西和賀町の境界にある大小屋山の北方に位置し、北東－南西方向に延びる、長さ約 1 km の推定活断層である。

(2) 判断根拠

尾根・谷の右屈曲や鞍部が認められ、北端付近には東落ちの低崖地形が認められる。しかし、活断層であることを示す確実な証拠を欠くため、推定活断層として認定した。

(法政大学教授 杉戸 信彦)

引用文献

- 池田安隆・今泉俊文・東郷正美・平川一臣・宮内崇裕・佐藤比呂志編 2002. 『第四紀逆断層アトラス』東京大学出版会.
- 今泉俊文・宮内崇裕・堤 浩之・中田 高編 2018. 『活断層詳細デジタルマップ [新編]』東京大学出版会.
- 大沢 穠・須田芳朗 1980. 20万分の1地質図「秋田及び男鹿」地質調査所.
- 岡田真介・岩佐佳哉・楮原京子・立石 良 2024. 『1:25,000活断層図「陸中猿橋」』国土地理院.
- 活断層研究会編 1991. 『新編日本の活断層－分布図と資料－』東京大学出版会.

- 地震調査研究推進本部地震調査委員会 2005. 雫石盆地西縁－真昼山地東縁断層帯の長期評価について. https://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou_pdf/14_shizukuishi_mahiru.pdf (最終閲覧日：2024年1月24日)
- 須藤 茂・石井武政 1987. 雫石地域の地質. 地域地質研究報告 (5万分の1地質図幅), 地質調査所.
- 堤 浩之・池田安隆・石村大輔・澤 祥・平川一臣・八木浩司 2013. 『1:25,000都市圏活断層図「田沢湖」』国土地理院.
- 中田 高・今泉俊文編 2002. 『活断層詳細デジタルマップ』東京大学出版会.
- 村井貞允 1961. 岩手県雫石盆地の地質 (その2) 雫石盆地南縁部の地質について. 岩手大学工学部研究報告 14:93-106.
- 八木浩司・今泉俊文・後藤秀昭・宮内崇裕・渡辺満久 2002. 『1:25,000都市圏活断層図「盛岡」』国土地理院.

使用空中写真，使用航空レーザ測量データ及び検討委員会等

1) 使用空中写真

撮影計画機関（種別）	撮影縮尺	地区番号又はコース番号
米軍（モノクロ）	1/40,000	M5-6-4, M11-4-2, M1022, M1072, M1080, M1137-1
国土地理院（カラー）	1/10,000	CTO764, CTO767
林野庁（モノクロ）	1/20,000	山-415, 山-330, 山-530

2) 使用航空レーザ測量データ

国土地理院と岩手県が管理する航空レーザ測量データから 1mDEM を作成して使用.



図1 航空レーザ測量データ使用範囲（グレー色塗りつぶし部：データ使用部，赤枠：図郭）塗りつぶし部以外は「基盤地図情報数値標高モデル（5mDEMないし10mDEM）」を使用した。

3) 全国活断層帯情報整備検討委員会

a. 委員会等の開催

第1回委員会・第1回全体部会（クロスチェック）

令和5年8月23日(水)

ビジョンセンター東京八重洲

地域部会（クロスチェック）

令和5年11月24日(金)

イオンコンパス東京八重洲会議室

第2回委員会・第2回全体部会（クロスチェック）

令和5年12月22日(金)

ビジョンセンター東京八重洲

b. 雫石盆地西縁－真昼山地東縁断層帯とその周辺「秋田駒ヶ岳」(令和5年度)

図 名	氏 名	所 属
秋田駒ヶ岳	○ 杉戸 信彦	法政大学教授
	石山 達也	東京大学地震研究所准教授
	岡田 真介	岩手大学准教授
	中埜 貴元	国土地理院応用地理部地理調査課課長補佐

○印は、全体のとりまとめを担当した委員，その他の委員は五十音順.

4) 連絡先

国土地理院応用地理部地理情報処理課
〒305－0811 茨城県つくば市北郷1 番
電話：029（864）1111（代表）

5) 引用する場合の記載例

a. 図を引用する場合

杉戸信彦・石山達也・岡田真介・中埜貴元（2024）：1:25,000 活断層図「秋田駒ヶ岳」. 国土地理院

b. 解説書を引用する場合

杉戸信彦（2024）：1:25,000 活断層図 雫石盆地西縁－真昼山地東縁断層帯とその周辺「秋田駒ヶ岳」解説書. 国土地理院, 9 p.

【付図（断層索引図）】

